

平成 20 (2008) 年の世界と日本の年平均気温について

2008 年の世界の年平均気温の平年差は+0.20 で、統計開始以来 10 番目に高い値となり、同年の日本の年平均気温の平年差は+0.46 で、11 番目に高い値となりました。世界と日本の平均気温は、依然として高い状態が続いています。

世界の年平均気温

2008 年の世界の年平均気温(陸域における地表付近の気温と海面水温の平均)の平年差^{*1}は+0.20 で、統計を開始した 1891 年以降では 10 番目に高い値となりました。世界の年平均気温は、長期的には 100 年あたり 0.67 の割合で上昇しており、特に 1990 年代半ば以降は高温となる年が多くなっています(図 1)。地域的にみると、ユーラシア大陸の中高緯度域や北大西洋の高緯度域では、平年より気温の高い状態が続いています(図 2)。

日本の年平均気温

2008 年の日本の年平均気温の平年差^{*1}は+0.46 で、統計を開始した 1898 年以降では 11 番目に高い値となりました。日本の年平均気温は、長期的には 100 年あたり 1.11 の割合で上昇しており、特に 1990 年代以降、高温となる年が頻出しています(図 3)。

平均気温の変動の要因

近年、世界と日本で高温となる年が頻出している要因としては、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響に、数年～数十年程度の時間規模で繰り返される自然変動が重なったものと考えられます。また、2008 年の年平均気温がここ数年に比べて低くなった要因の一つとして、2007 年春から 2008 年春に発生したラニーニャ現象の影響が考えられます。

世界及び日本の年平均気温、月平均気温は気象庁ホームページにて随時更新・掲載しています(<http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/temp/index.html>)。

*1 平均気温の平年差は平均気温から平年値を差し引いた値です。平年値としては、1971～2000 年の 30 年平均値を使用しています。

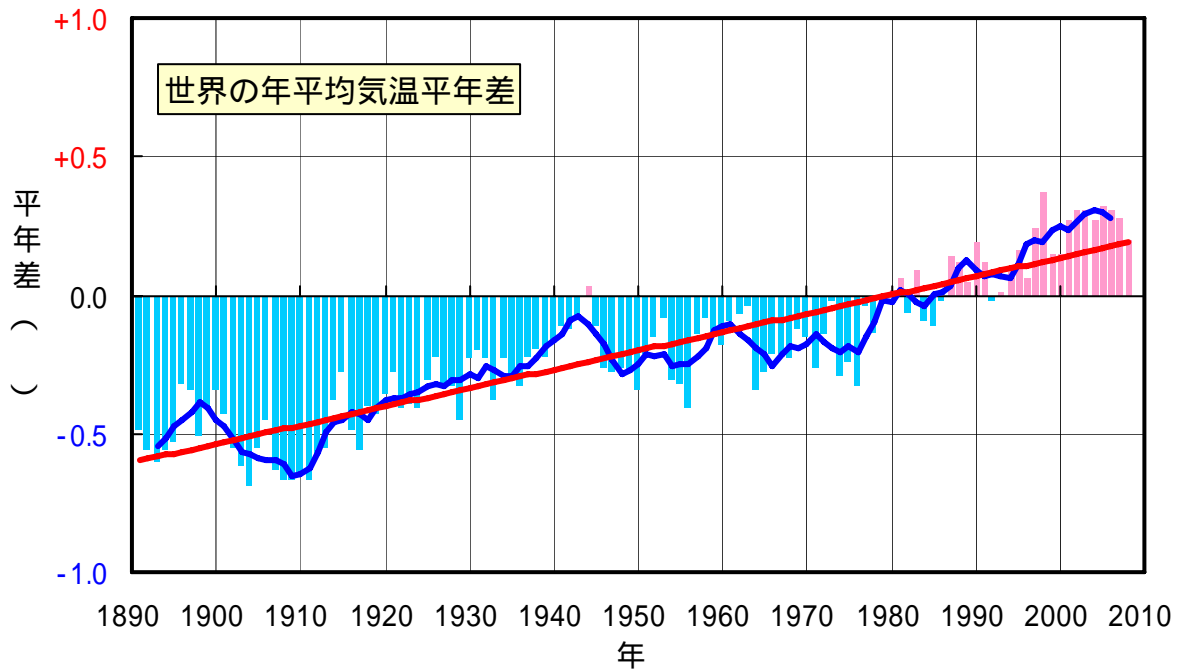


図1 世界の年平均気温の年平均差の経年変化(1891～2008年)
棒グラフは各年の値、紺の曲線は各年の値の5年移動平均、赤の直線は長期変化傾向を示す。

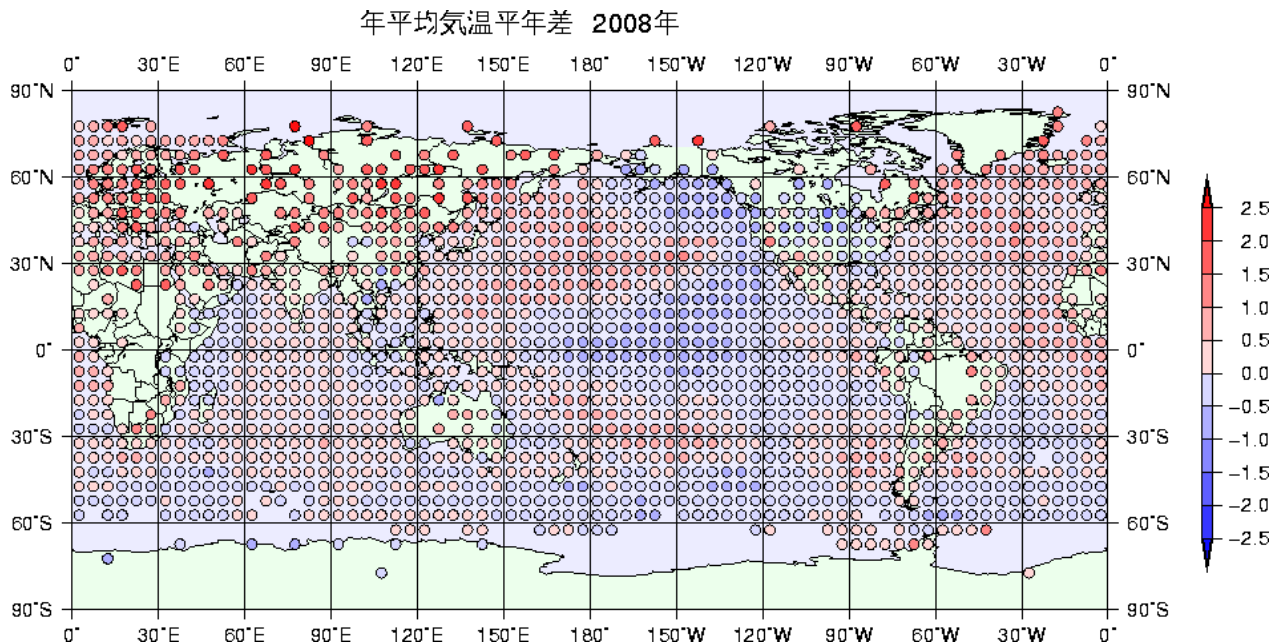


図2 2008年の年平均気温年平均差の分布図
各観測点の年平均差を緯度、経度5度の領域ごと平均した値を示す。
2008年は、東南アジア、米国、オーストラリア東部を除く陸域のほぼ全域で気温が平年よりも高く、特にユーラシア大陸の中高緯度の陸域では昨年にも続き平年よりも高温だった。海面水温は、中部太平洋赤道域から北米大陸西岸にかけての負偏差、西部太平洋赤道域から日本東方海域の正偏差が顕著であった。また、北大西洋高緯度では海面水温が平年より高い状態が続いている。

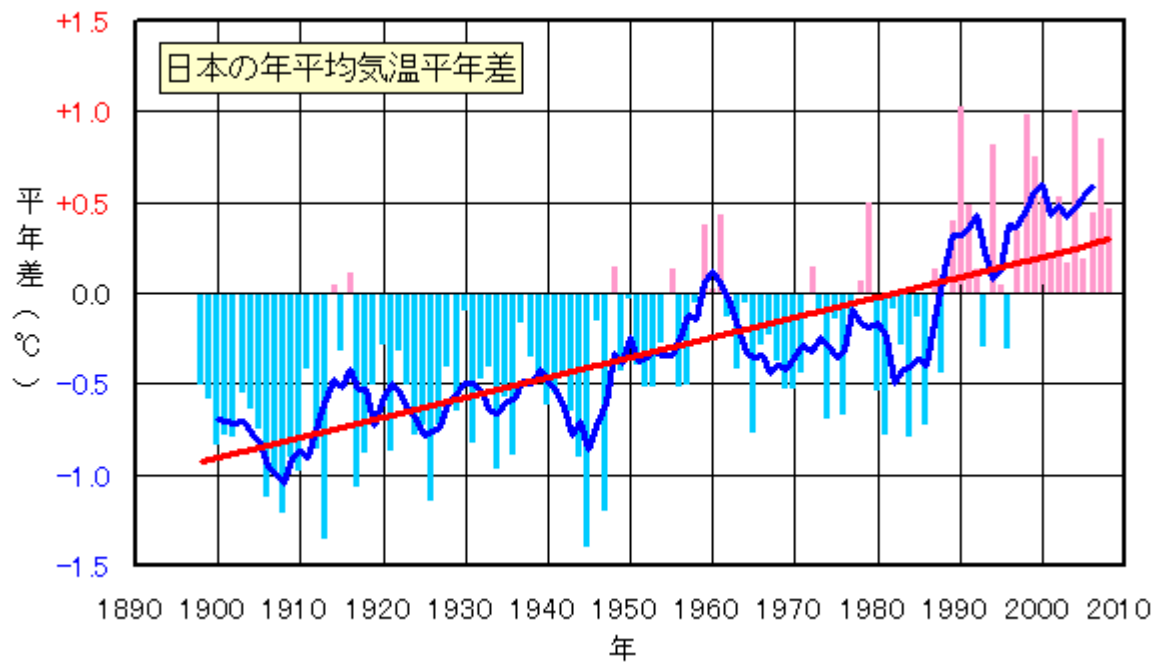


図3 日本の年平均気温の平年差の経年変化(1898~2008年)
棒グラフは各年の値、紺の曲線は各年の値の5年移動平均、赤の直線は長期変化傾向を示す。

世界と日本の年平均気温の順位

順位	世界		順位	日本	
	年	平年差()		年	平年差()
1	1998	+0.37	1	1990	+1.03
2	2005	+0.32	2	2004	+1.00
3	2006	+0.31	3	1998	+0.98
	2003	+0.31	4	2007	+0.85
	2002	+0.31	5	1994	+0.82
6	2007	+0.28	6	1999	+0.75
7	2004	+0.27	7	2002	+0.53
	2001	+0.27		2000	+0.53
9	1997	+0.24	9	1979	+0.50
10	2008	+0.20	10	1991	+0.49
11	1990	+0.19	11	2008	+0.46
12	1995	+0.16	12	2006	+0.44